井徳抄

下

中野文庫

大阪府立図書館

筆記

同名名所
いるさもの浦

古今八

中納言行平

立わかれいなばの山の峰に生るまつとしきかは今かへりこん

山名所農国播磨国也ありこの山稲葉と云所国播
磨国一宮宮伝云所也皆松多生所也国播磨国也
注の付也詠しもんかわつるすり新古今十續拾遺云
又十六新後撰云山名所皆以中納言詠為本歌

ふるさと山

拾遺十

能宣朝臣

ふるさとの山人をそ思ふいのちなる

丹波國ニ又出羽之国ニ千載十花の命ハ大愛金方
丹波

とゝゝ山――峯　　百八　　岡本天皇

なされいとゝゝ社山ゝうく海のゝ　ゝ

山城国　淀殿ゝ也　　百九　　後京

白雲の立ちの山ゝ海の上のとゝゝ　ゝ

とゝゝ社宮ハ大和也　小倉山ゝ石可恋乱

かゝるひ山――宮山――杜　　千載集

ちりぬるゝ神ゝひ山の神ゝとゝゝ　ゝ

丹波国　大嘗會神也　　古今ゝ　　忠峯

神ゝひのゝむろの山とゝ社ゆけ　ゝ

立田川ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

大和國ゝ神ゝひ山神也　　古今ゝ

忘の杜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

神ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

中納言

ゝも大和ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝて海ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ海ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

とゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝゝゝ川ゝ山

古今 ゝゝゝの山ゝゝゝの滝をゝてゝゝゝ

ゝゝゝ

あらしゝゝゝ滝のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後撰 不審

吉野川をゝゝゝゝゝ滝つゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

古今十二

一 ゝゝゝゝゝの吉野の滝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新古今

[illegible]

後鳥羽院

百樂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十九

家持

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百四　後京

[illegible]

同一

[illegible]

百四

かくてのこりなくやれらん[illegible]

同七

あきの川野に鹿のなくこゑのうせゆきぬるこゑもうしなふ

紀行志之子細見万葉集

万七

[illegible]の山[illegible]立わたる雲ふもとあまつ叶まくら

山路志

[illegible]

[illegible]

万葉集

[illegible]

大和志

万十四

立

[illegible]

いくたの

山の

紅葉

[illegible]

松[illegible]

[illegible]

いまこそ

[illegible]

吉野川

せゝと入て

落合瀧は

せゝ

人の

のぞき

見し

すゝか

かゝ清けさの紅葉うつる人

千載十巻　源仲綱

住吉の中川瀬をうるはるみさをやうり

三原別所　万葉十巻　上野乃さのくらちのうらゝ

秋山をうんうんうん

[illegible]

百三

いそやうたかのくらくの荻乃まゝ荻原乃まゝ折て中ん

百三

みちの北まゝかゝ原とゝけて西新ゝ[illegible]高と

まゝ浦乃ゝの浦ゝ接国文まゝ浦田まゝ

合八迎原まゝ萩原八屋[illegible]ゝ[illegible]ゝ八陸奥也

先年宗通卒會我伊[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ゝと新原初白て詠直ゝ中ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

百七

ゝ国のまゝ清辺のまゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

百十一

[illegible]

[illegible]八摂津ゝ

ゝすけ乃みゝ

[illegible]

九条家円大臣

松新の入[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

角田川

新勅撰十二

[illegible]

[illegible]

新後十八　法市法師

[illegible]

伊勢物語[illegible]

[illegible]

百十四　弁基法師

[illegible]

[illegible]

行基――鞍原――山――社

百二

[illegible]

古今又

[illegible]

拾二十

[illegible]

新古今三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百七

[illegible]

百九

[illegible]

大和竜田新在家にいかつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

百七

[illegible]

[illegible]

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕ぎりは山ぢにしてみちのくに世田の玉川をうつす

千載 記　　後鳥羽院御歌

あきかぜの世田の玉川萩こえて夕ぎりはるる月の宿かな

拾二　　摂津

人なれぬ山路のさくらさかりにてきりかくれたる玉川の里

山三首玉川　五首同吳竹　新古今　家集　和歌六帖　玄旨奥歌　拾遺

千載 二　　後嵯峨

弱とよりて世にすみわびぬ山路にはたゆきの雪をたれ玉川

山玉川を山路

藤古今　　後鳥羽院御歌

玉川の岸の山ぶきみえくるる波よりうつる山吹

世田家　拾遺　新後拾遺　玉川井　玉川　玉川　石

拾遺 流　　まつ　　真年

万 記

陸奥の国の名所のつき橋ふるやいりの葵ふりつるの

摂津玉川　金葉　後拾遺　新古今

ふるとしてもはるかすみのたちかくるまつとはのうらの

芦も見ぬ　拾遺　千載　後頼朝　長方　文　まつ　つき　橋　師

万 十記

あのとしにかはるものかはのまつ橋ふるとしにかはるものかは

下　後撰　山橋　代　条　連　師

金二　　顕仲　　記

宵ごとに水面さわぐしきわ川もとのつき橋ふるとしにかはる

大和玉川　山橋　名　和　川　石　川　源氏

大原――小塩――さえのくぼ

初花十　良暹

花やあらぬすみぞめもうつるまで秋やうつるこそ煙なりけり

小山の大原也

万代

大そうもいのちもいつまでかはいすがてあるをぬる

古今

大原やをしねの山のふかそはに神よりおとしいつるかな

又に山ぶきもうるはしかりけり　大原拾遺

侯拾遺

なつくさやあしもうるはしかりけり大原やおかのうへのをあすしみそ

十首　北山大原

金六

をかの山ぶきもうるはしかりけり大原やさいのわらびもわらびも

西山也

小野――篠原――船橋

金集　公実也

雲ぬきのうらびくこゑのほのかなるかりのなかにはなくなりけり

大ぶちの松小野　惟方也

もしもなんしらぬうきよのなかにはなくなりけりもしぬ松

なにもなにものかりのなかにはなくなりけり

神楽中ふうすまけるなかにはなくなりけり

神楽　神楽　神楽　神楽　神楽　神楽　神楽　神楽　神楽　神楽

古今

山里しいてうきのなかにはなくなりけり

後撰

あさらふれるの雪のいとしろきを
古今撰ニ在山城と云ふ　大原小野
とはるゝ人のなかりける小野や　後拾遺今ハ　雪ふる
さとの古れていとあはれなりけり　乃
神ぬし　薄雲門院少将　後撰ニ旅人の宿り
衣をてさしくタ雨もふるとの云ふ
定家律師　これはたゞ小野とあるなり
なりあふとに小野といふ宿あり　ものとも

以不あり　あつまうまたとものの
うふもの　相叶　但不安　先達説推
量ニ侍　とそ　といつくも小野と
也非　石山和尚　云小野流と云ふ
山科小野なり　小野は八條四ノ
詞花　後雅　母

中宮に小野の宮とゝ云ふ
元國不分明
西行

拾遺

宣ク

[illegible]

[illegible]

第七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大くら　大くら山　一一の人に

拾十　紙宣羽長

[illegible]

迫に玉と大嵩舎[illegible]と坂按き[illegible]あり

百九

大嵩の[illegible]人の[illegible]日面乃わ[illegible]し

山城西宮[illegible]川と[illegible]

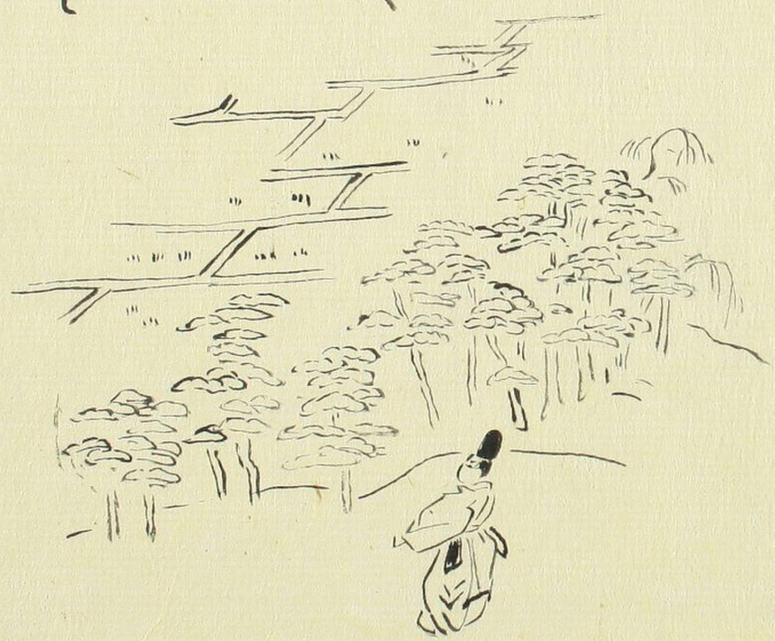
松山

後拾遺八　定頼公

松山の[illegible]風吹[illegible]

[illegible]

後撰十一　贈大政大臣



[illegible]山

松の[illegible]

[illegible]

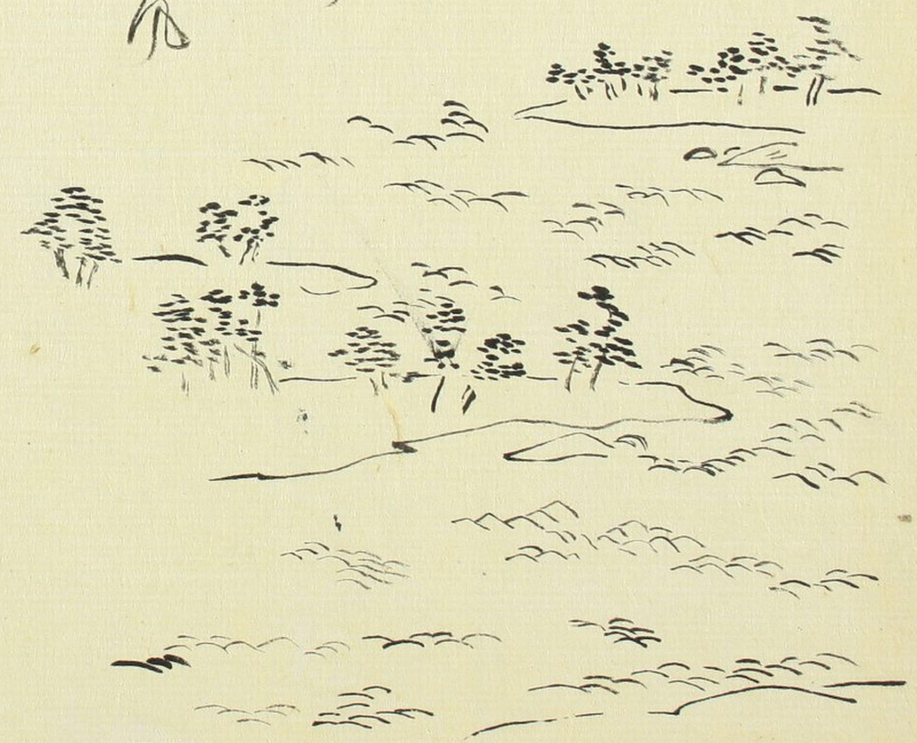
わ[illegible]

田面[illegible]

秋風を

[illegible]

松ケの
入海
ケて
さすけの
みなとふさらす



和の
塩ケ

[illegible]山[illegible]
陸奥国松山也
[illegible]
万十丈
[illegible]
伊勢国也
万二
いせ[illegible]
[illegible]
[illegible]川 [illegible]
[illegible]山 [illegible]の浦
紀伊国[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続拾　五　　従二位成貫

[illegible]

たかくしら山しら浦　　鶴金　大大臣

彩勅撰　五

雲のかゝる梢をふかう吾ゝかたのゝ山ゝ庵てはなる

金葉　八　　紀伊

[illegible]

[illegible]

第一

[illegible]

[illegible]

こ　海　浦

万七

なこの海のあさひの名所ゝいそのうらみれはけふ

都中国也

万

[illegible]

播磨也

あふのうこ　あくの海　あふの浦　川京

万巳

[illegible]

右門部王任出雲守時娶藤門娘亡妻有歌

院歌徒然累月之後更起思出仍伝之并後

姫子一云くにのうみ出雲国

新古今 十四 定家卿

[illegible]

[illegible]

続古今 順徳院御製

[illegible]

[illegible]

拾十八 人麿

[illegible]

[illegible]

万十八 河原

[illegible]

[illegible]

拾十八 布勢海云

[illegible]

古二十 行幸

[illegible]

行幸国也

万八 聖武天皇御宇

[illegible]

[illegible]

万十一

[illegible]

下野国也 但万二よりの川原也 [illegible]

[illegible]

ふるかはのうへ　深

右九　為綱卿

ゆきとのみちのくにまかりけるときこのうたをかきてつかはすとて

元輔

ゆくすゑはまつとしきけどこのたびはもみぢのにしきたちぬとぞきく

大中臣輔弘

合八

ちはやぶるかみのいがきにしるしをばいかでかこえんこのたびはぬさ

新勅撰

家衡卿

ちはやぶるかみのいがきにしるしをばいかでかこえんこのたびはぬさ

藤原公任

あさくらの滝　山しのぶ

前宮内卿

百葉

夕されはかはらのみちをうちこえてはるかにみるは

百十記

あさくらの滝　深

四不分明

右十記

みちのくにあさかの沼のあやめかりとりしらんとはるかなるこころ

百十一

あさくら山のはるかにみるは

市原王

はるかなるこころ

前大納言

みちのくにあさかの沼のあやめかりとりしらんとはるかなるこころ

前八

はるかなるこころ

市原王

はるかなるこころ

原作者いふ伝あり

かくこ山——の文

古十七

かくこ山いさ立りてゆむ年——なかめ者思ふかな

西行歌

万二

豊岡のかくこの山ふいたしてかられ者しまそしら海ら寺

さそ者也わ古者思ふ泳山今ふく和ふ——

後拾

神代より者とこうそあくまあかうの文をする月氣

伊勢物語

ふくら——拾——淀——山——文

和歌の浦

拾みら

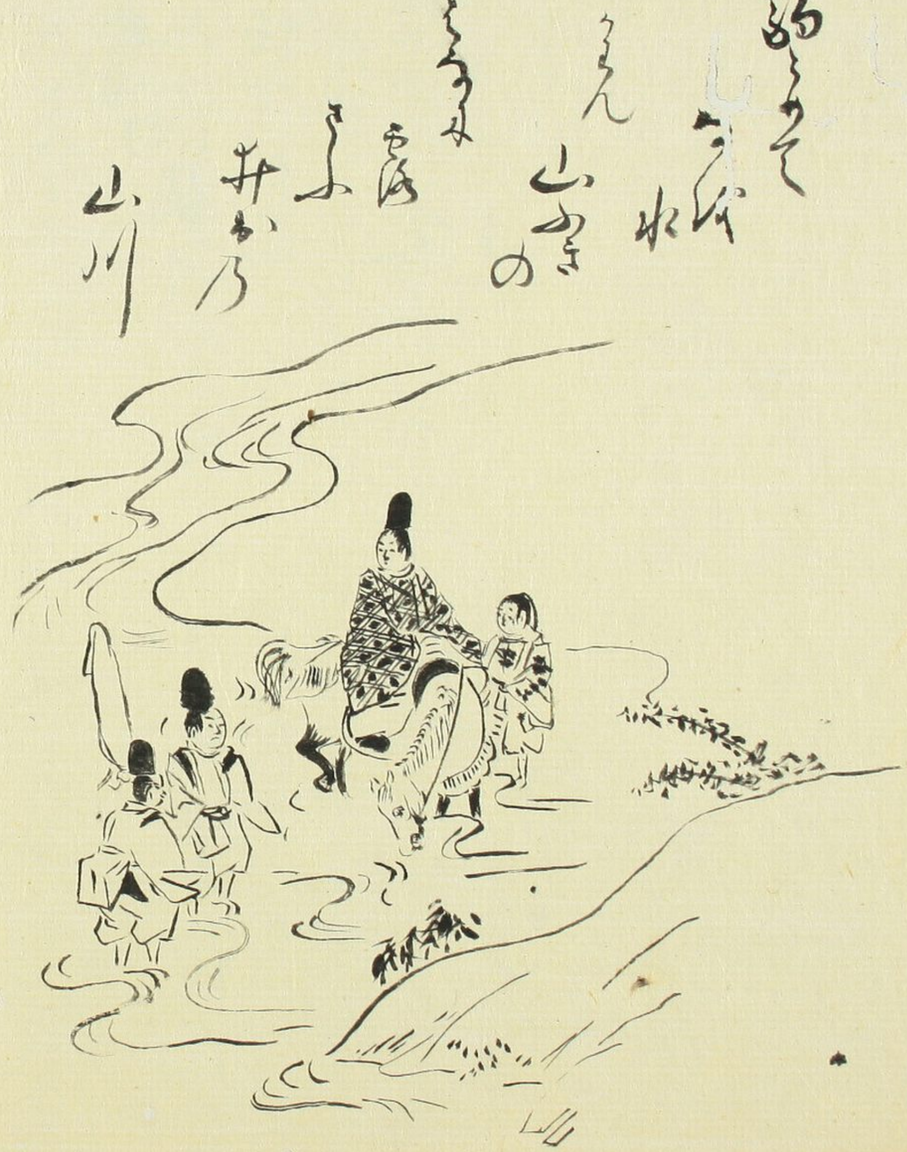
月

かくれ

あ遠と

さて

田鶴



古十五

[illegible]

新古今十七　　恵慶法師

[illegible]

万六　　旋奇

[illegible]

橋[illegible]　高皆橋は[illegible]

後撰十七　　[illegible]

[illegible]

浴十　　[illegible]

[illegible]

迫冠

[illegible]浦　[illegible]

[illegible]

行能朝臣

新勅十一

[illegible]

[illegible]

後拾一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰十八　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あくの国――市海――海山

万十四

[illegible]てあくの国角[illegible]みくりの[illegible]さ　長八千さくも

古事記ふる国

万三

角さくみ[illegible]とりゆきしの[illegible]の市海さありてこれ

出雲の地いろもとの名北あくの[illegible]を

為家卿

続古今

みつきなの山はいなかくしてあるあひだの[illegible]

大和国さし

かつらぎ川――の里――山――北之――原

清原[illegible]

[illegible]川[illegible]のきれけんしゆきてあ[illegible]

金葉

こもりくの泊の里北月とそこのもりのあれる

川里　月和　山城

新勅七

注序

久方の月の[illegible]山人[illegible]

丹波国大嘗会寺

[illegible]月[illegible]の[illegible]を[illegible]を新[illegible]八[illegible]を

[illegible]八山[illegible]元[illegible]川[illegible]地今[illegible]極宮流[illegible]

坂九年角[illegible]

[illegible]のあ[illegible]

[illegible]八は[illegible]

[illegible]——田——の浦——山松

初之

[illegible]

百十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第七

[illegible]

拾七

[illegible]

百十三　大織冠

[illegible]

[illegible]

百二　八九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百九

[illegible]

大和国

[illegible]

[illegible]

百十一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂撰云

[illegible]

常[illegible]

[illegible]

古今拾遺云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十又

[illegible]

千載

[illegible]

[illegible]

千十八

[illegible]

万

[illegible]

行勢国[illegible]山陸奥[illegible]

坂拾

[illegible]

陸奥[illegible]

[illegible]

万八

[illegible]

[illegible]

備前也

古二

今[illegible]

山陰

[illegible]

万二

[illegible]

迫[illegible]

同十二　三イ

[illegible]川の[illegible]

河内[illegible]

同十

のと川のみなそこさへてふかきよみなるの山ハ浪とけるかな

やまとうた

同十七

ふるさと雑の陸山ふかれらちるけるつてなりけり

元イ

第五

一同類事

六百番歌合

右

中宮權亮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同年合　わるく

左　わ

顯昭

[illegible]

右方ハ云九条前花集後恵奇云後鳥羽院御時
[illegible]
判云九条ハ後恵法師方ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

同家合

九　世房

[illegible]
右方ハ云教良卿家ハ
[illegible]

九薄云不撰集者不見及有何証乎
判云九条教良公卿ハ撰集者也撰集ハ
[illegible]

[illegible]百番家合

九　頼服

[illegible]
判云九歌[illegible]
[illegible]
建久二年九月将軍百番
[illegible]
正治二年　内　[illegible]家合
[illegible]

雖似非今事 徐達遐今之聽打出見度刻左流此心
大略相同也爰右方氷白雖既無論風体似御意
私云二代判 北江淮歌

二百番 猪熊

右

[illegible]

判云[illegible]

[illegible]

二百番

右

[illegible]

判云右[illegible]

[illegible]

不[illegible]

[illegible]

一同[illegible]

[illegible]

二百番 忠良

[illegible]

中務卿親王御歌

白雲の[illegible]

[illegible]

[illegible]

二百番

[illegible]

判云[illegible]

家所に家訴今

いのりつゝ[illegible]

奉[illegible]判云[illegible]

[illegible]

[illegible]

西河山農淮川家合

[illegible]

判云[illegible]

いふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

判云[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六　離侯

故宗通後諸ト云續古今ハ正元元年西園寺北山殿
御共ニ内裏ニ参郷入道一人ノ撰進ニ宣旨下ル之後
加撰ニ被ル真觀ト向関東将軍家中務ノ宮ノ入道親王ノ御所ニ
毎日宴乗ノ部ニ被ル入ル撰ニ
のうたの部ハ一事ノ心ヲ不ル詠ニ
詞ヲ定ル之ヲ後ノ人ノ
行様事ハ主中部ハ
作ト云ヘ共遠ク
ト云ヘ共ハ仙人ノ
ト云ヘ共ハ入道
ト云ヘ共ハ一年ニ
陳ル勅撰ニ者ハ貫二百ヶ条

故

眼

事ヲ
首ヲ作ル百首ヲ
大ク
人ノ六略脱落部ト
部ハ風部ハ異ル
詠人ノ
桐壺覺
之悪歌部
云ヘ共
故宗通云後成ハ
ヲ
又云ヘ共ハ入道部ヲ
ハ云ヘ共ハ入道

作れる詩歌などに撰入せられ多く称せ
られしも亦詩の撰者なりしなり
されども詩歌を作るに作者と
云て有る時は詩歌を作也
又云二条院讃岐門弟なる由
曾丹後守細川幽斎公の
故中納言入道殿中務卿
親王の門弟なる由
寄合あり
歌宮内卿
詩酒宴の新法
歌を
詩を
歌の
詩の
歌の
詩の
歌の
詩の

[illegible]
[illegible]
本人語云あり自家を著て（文川家会）定家卿の幸行
判をとりひらき家判をつくり侍従こそ家判
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

祇部行氏語云ふ時行ア中歳（新物語作者）にあひて作る
事ども多くあれども今は略す
元亨年中に高野に入道信実卿と申しける
故実道に深く入道信実卿と申すに
されば信実卿は花山院の御子にて
信実卿は花山院の御子にて
出家して法名を蓮光と号す
出家して法名を蓮光と号す
出家して法名を蓮光と号す

然ふ願老服之不堪書写之〻〻
御侍内行ハ之之七て五人師匠ハ弟子親房母あるまちの
出家ハ法性寺高師之法性寺高師ハ
ハ見て之名之人之ハ見泰之て法性寺家ハ等
陪りの行特佛堂にいりて法之ハ之ハ草之ハ
きみ之ハ之ハ之ハ山之ハ山之ハ法之ハ
之ハ之ハ老のすまいもせくしたの梅の
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
ハ之ハ之ハ優之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

[illegible]勅撰乃中ふかくし
故宮道云氏朝臣入道内大臣[illegible]
[illegible]事なり常に[illegible]
[illegible]
[illegible]
冨士の山[illegible]
[illegible]
[illegible]
又云氏朝臣入道[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又云氏朝臣入道[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

徳大寺殿より内侍を召あり殿の西北角八畳ばかりに
坂東大名府の侍所に対面して侍りし二条殿中云
九大将家六面女房合の時左右数日を経て加許宣旨
有りと云書状を自給ひ毎日あまたの寄進題目
毎日にあてはさしあひ題目ひまなく物たとは
ちもる寄進ハ今まくひとりそ〳〵いとひ殿中北面
所例の物九度ひとの名ばかりを連ねたりとそ
六条殿府侍所云坂東頭殿時柿市栗なとを
柿市ハ今の時の市場と云栗ハ時の物なり
または平氏とハ有ハ坂東殿道理相当以下の時者
遣し申人〳〵云々ハ九郎の家行ハ奉公根本也水無
瀬和泉守殿ハ道をとくとそ云ふ有り道を大なる事

恭光

あり風俗ハ清ものなり日有四の二方ハ高倉殿
ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ
平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵
ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵ハ高倉殿ハ平氏の方〳〵

[illegible]

又云表裏[illegible]流 徹[illegible]

中納言入道[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六条府[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]事[illegible]あり不知[illegible]事[illegible]　文保大嘗會御陪膳

[illegible]内[illegible]御所[illegible]知[illegible]九[illegible]幸[illegible]とある[illegible]

云[illegible]あり[illegible]

[illegible]世[illegible]

[illegible]世[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ひとり勅定に[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

のあるをえて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吟

紙と為第ゝくあるを八幡宮にてそえゝ宗遍
句俳完成して目録をめ給ふ
詩中けるは新完はゝ古今和
はゝ今ゝ俳諧覧南紙京
和歌を稽古は将来
為兼は同じ事新
小倉公文永亀山院立后
大原抱酒食あるゝ
（ゝ）秋の冠北山の
ゝと舞三神詠
向御前稽して東天海
什勝字は
中納言典侍

中云相生
ゝ山は
ゝ
加賀前
又云遠寄
ゝ
云句に
つゝて
て及遠
ゝ
ゝ
ゝ

携

勅撰

[illegible]

後白河院御宇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]遍ふ[illegible]獻[illegible]る[illegible]條[illegible]て[illegible]件[illegible]て[illegible]文[illegible]を[illegible]
[illegible]代事[illegible][illegible]付[illegible][illegible]流[illegible]遍[illegible]
[illegible]
[illegible]

うて宗旨ありく宗ふくさ法師ありいつくにても足あひさ
らえからと行るゝさよりはものあまりにてをたり
貧子ちもあり八天下の名人あり高のあり八可為
弟子とおもひさるに法師ありて宗旨の法師なりまいり
て宗の法をあるあり法師なりきける弟子ともをもうまへて上人より
ちとをかなをかて法師なりて指へ問りをたる意に
地ちをんと云人あり上人へうとをとをれうかれ八為ちと中
あるにて法師弟子のあるよりて八今八日ちれに一歌
此所宮より出ん人とて来りて行いひれて上人ちをて
よをちをもと引くあるひ法師の来叶る新まあり隙
子をあけてまるあり上人をとをて出ん八給へとて
入て対面をとを弟子をつる出家收

八今より為弟子法師おもひをして派附をて答をして次相
又附あをすめをちを法名をつる弟子をあるを巻つる弟子を海好
事脱出して上人をの所に弟子をあるを海好
をあるの所に行よ弟子をあるを海好
をあるをとをて法師をあるを海好
文学にをあるを宗の法師をあるを海好
者あるをとをあるを海好
或人云千載集の法師を海好
法師しけの道をを愛道にあるをあるを海好
をや校歌をあるを海好
書と云家今をとをを海好
来をとををれより又平安へ下をけるをを

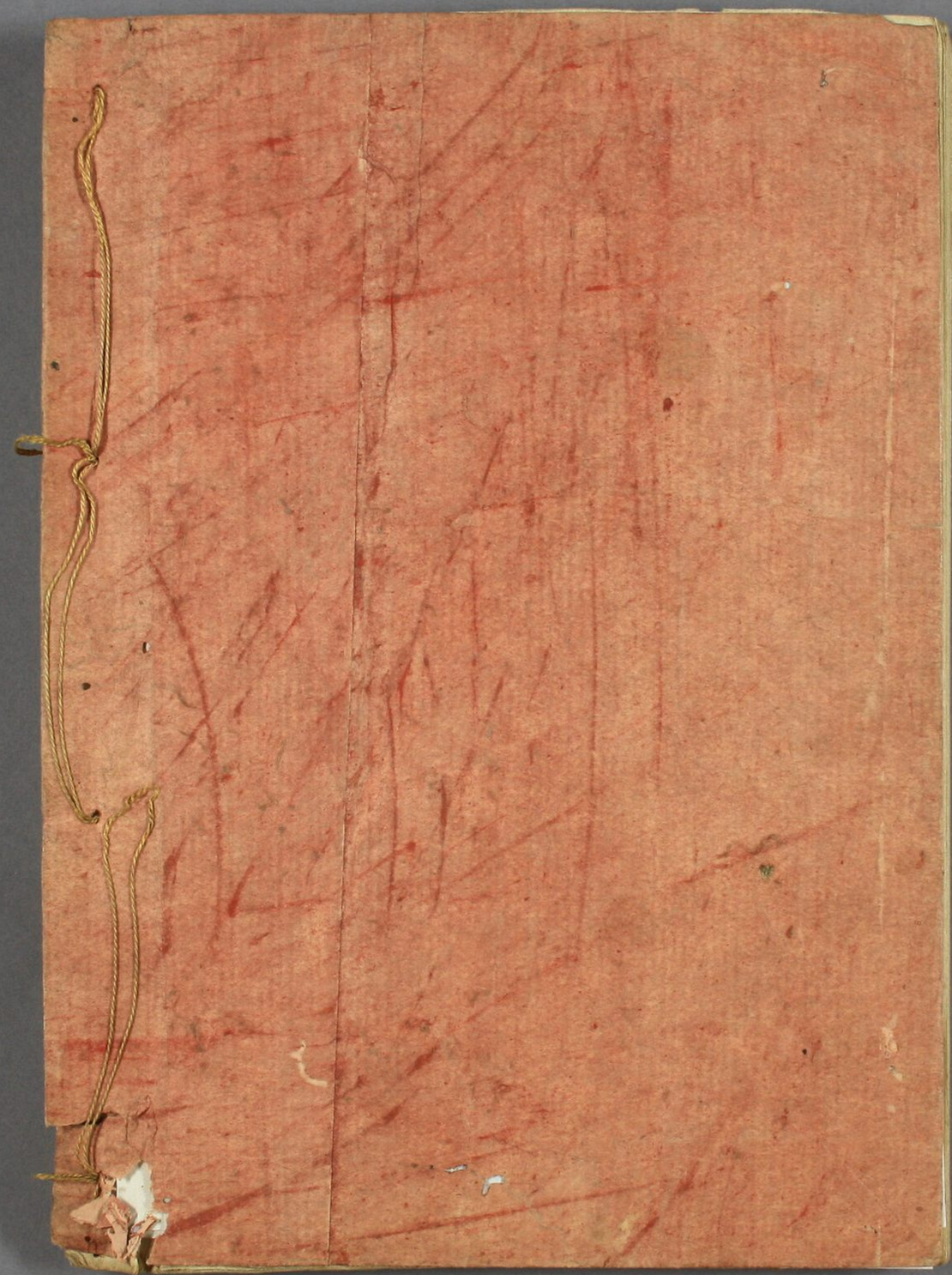
要ル

和聖西国ものの行ひ
けう菩に少社の
多人も有り 牧人とまた
不分ものとは殿のうちへ
外ふあるれいこれ
られ給とえ給
みたかく南北岑房
紙筆とおてゆ
国佛法と道
今と神とを
しもの神法と思
と申されし神
ゆ給ふ新
も三拾七年
有りもする事
三十首とも
う和事ゆ
寺に東入道
所と勅撰
故宗道に
それ

此六巻 文明十八年五月十七日 常德院以御内書被仰付之条
倫々俄於燈下書写之早終功八月
正本被返下重而在御内仰付自筆書
同修繕守貞宗物之者也
延徳元年四月二日 法印判
明應九季乙亥三月十六日来仁写畢之正本至
於裏之由所及之本第以不可他借有
之書籍多以紛失也行年七十二
沙弥判

師病氣及数日於上今去南来之資粮
如此茲執筆之法印別無他筆之間常
和尚の御用薬而已此六帖二戸有之一帖
右此本四条大納言殿業森山方筆以遠
校合早為之右之号是筆之淀先帝
書写畢重而可清書而也

享祿三季三月十二日 於摂州吉田中郷
右筆俱賢

井幹抄頓所法師作也舊本六冊
今合之而為二冊一交民女能為秘蔵
之云市野宣茂之所被祢書寫早
於是令愚息嵐風寫語之尤
可為宝玉者也

天明元年葵卯月　　鶴閑